

## 東北大学機械系

## 同窓会ニュース

## 第4号

東北大学機械系同窓会  
980-8579 仙台市青葉区荒巻  
字青葉01  
東北大学工学部機械・知能系内  
電話 (022) 216-8126  
FAX (022) 216-8180  
郵便振替口座  
番号 02270-8-11176  
名称 東北大学機械系同窓会  
印刷 笹氣出版印刷(株)

## 海外駐在始末記

— オーストラリアにて —

田嶋 忠志 (機33)

少し古い話になりますが、私は仕事の都合でオーストラリア・シドニー市に、家族帯同で六年余り駐在しました。仕事の話はさておいて、今回は日本文化と異なる生活経験を中心に書いてみました。ニヤリとして読んで下されれば幸いです。

さて、私自身の英語力については、若いときから興味あり、仙台では西公園のYMCAとか、アメリカ文化センターに通い教わっていました。入社(石川島播磨)してからも続け、たまたま仕事もボイラ設計であったためか、海外出張の機会も多く(合計一五〇回位?) 多少の英語に対する免疫性はあったつもりでしたが、いかんせん大人になってからの英語力では太刀打ち出来ず、かつ出張英語と駐在英語の落差は大きく、失敗と恥ずかしい思い数知れず。英語での失敗と恥がうまくなる秘訣と言われますが、そこには遂に到達しませんでした。

## 一、オーストラリア英語で困った話

駐在前にもオーストラリアに出張したことがあり、キングス(クイーンズ) イングリッシュではなく、ロンドン下町で使われているコックニーアクセントであることは承知していましたが、駐在となると手加減なく、客先である電力庁との打ち合わせなどで、例えば「紙」のペーパーをパイパーという具合にアイの発音がきつく、なかなか完全には聞きとれませんでした。

一般的に「駐在は一年、二年は使えものにならぬ。三年目から分かって出し、五年目から一人前」と言われていますが、電力庁も手加減してくれたいかやつと三年目からボンヤリ分かるようになって来ました。東京本社海外営業から英語達人氏が出張してきたとき等、同行してあげると、達人氏は自信喪失することも度々でした。

しかし面白いことには、このオーストラリア人は自分の発音がパイパーであるとは思っていないとのこと

## 会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します(年二千円)。

でした。全く自覚の無いということには、あきれしてしまいます。

私達の仕事は、シドニー郊外三箇所に発電所を作るプロジェクトでしたが、受注金額の八十%を豪州で発生させる契約でしたので、下流側設計・資材・購買・検査・製造・建設それに経理・営業などの大部隊をシドニー現地法人に集結しました。私は、日・豪プロジェクトの豪側の責任者としてシドニー本部で外人四十人・日本人二十人位で仕事をしました。三箇所の建設現場にもかなりの日本人・外人が常駐していました。

新任任の日本人に対しては、電力庁と打ち合わせるとき「話が分からなかつたら、パードンと言え、納得するまで安易にイエスと言ってはいけませんよ」と口をすっぱくして言っていました。電力庁からクレームが入りました。

それは、「打ち合わせでパードンが多過ぎる。どこからパードンか?」と聞いたら、「最初からパードンである」との返事であったが、これでは困る。英語の分かる外人を連れてこいとのこと。それでも三年位たつと、外人はいろいろ電力庁のアゲアシを

取るので、今後は外人不要。日本人だけにして欲しいと言われたのは、日本人が契約に甘いからでしょうか。

## 二、レディ・ファーストの話

オーストラリア・ハズバンドという言葉がある位、なぜか旦那は一生懸命奥さんに尽くします。次のような笑いたくなるような自分自身の体験があります。

## (その一) 自家用車の洗車

車を洗うのは男の仕事のようです。日曜日の車を家内が洗っていたら、隣の親父が来て、車は男が洗えと文句(忠告)を言うのです。その時は、いま洗っているのは、家内の車であるから家内が洗うのは当たり前。自分のことは自分でやるのが日本流と言って撃退しましたが、その後はなるべくウィークデイに洗うようにしました。

## (その二) ゴミ出しの作業

最近、日本でも出勤時などに、男性がゴミをゴミ収集場所まで持ってくる人がおります。シドニーでは、ゴミの入った大きなバケツを家の前に出しておく、夜中に収集車がやってきてゴミを持って行ってくれます。このバケツにゴミを運ぶのは、これも男の仕事です。これも家内が日本流に自分でやっていたら、運悪く近所のおばさんに見つかり注意を受けました。これは夜暗くなるまで待つことにして最後まで自分ではやりませんでした。

(その三) エレベーターの乗り方  
エレベーターには女性が最初に乗り込み、その後で男性が帽子を取って、かつドアの方を向いて乗り込みます。駐在の最初のころとか、出張者は日本式に男が最初に乗ってしまいます。これは絶対駄目です。女性からもならまれ、男性からも注意を受けます。私達は出張者に対し最初にオーストラリアで守るべきことを書いて、守ってもらいました。

(その四) 車のドアの開閉は男の係  
車のドアの開閉は男性の仕事です。外国映画では見ていましたが、実際にやると少しテレます。シドニーの駐在員の大多数はほとんどやりませんでした。しかし、パーティなどであり、多くの外人が見ているところを車で出発するときなどやらざるを得ません。

駐在も十年以上の商社の人など(例えば羊毛関係)には、これがスムーズに出来る人がおり、尊敬に値します。

## (その五) 八百屋などの買い物

日曜日は、州の法律により特殊な店を除き全休でした。土曜の午前中一週間分の買いだめをします。八百屋などではかなりの重量になります。普通日本では奥さんが野菜など手に持って旦那の待っている車まで運びます(最近の若い人はそうでも無いようですが)。

私はある日イタリア系の八百屋に

行き、車で待つていたら、八百屋の親父が私を呼びにきました。何かと思いついていったら、「この荷物はお前が持つのだよ」と怒られました。

(その六) 庭の芝刈り義務

芝刈り作業は男の仕事です。芝刈りをしないと、近所の人から住環境の価値が下がると注意を受けます。日本人はどうしてもつき合いゴルフが多く、なかなか芝刈りの機会がありません。駐在も最後のころは、英語も少しうまくなり、近所の中学生をアルバイトに雇い、定期的にやってもらおうと身に付きました。

要領が分かってきたころ、仕事も終わり駐在満了となりました。帰国してから、日本のテレビが、隔々まで良く分かり、感激したことを強く覚えてます。

いろいろもつと、子供の教育の話・パティの苦勞・日本食確保の苦勞・蠅の話・日本人会の話などネタはあるのですが、今回の字数制限となりました。また機会がありましたら、続編をご披露します。楽しんで読んでいただけましたか？

(たじま・ただし)

石川島プラント建設(株)

**平成十年度通常総会予告**

平成十年度通常総会は平成十一年五月十五日(土)、仙台において開催の予定です。多数会員のご出席を期待しております。

**イギリスのマナーと**

**韓国のバイタリティー**

岡村 孝(精42)

韓国釜山の地下鉄の駅、ちょうど電車がホームに入ってきた。人がどやどやと降りてくる。降り終わるのを待つていたら後ろのおばさんに背中を突つかれた。「早く乗れ」という。まだ降りる人がいるのと思うが、確かに他のドアを見ると降りる人を垣間縫ってどんだん人が乗り込んでいる。ここ韓国では降りる人が優先なんて言っていられない。降りる人におぶつかりながらも我先にと乗り込んでいく必要がある。

かつて日本もそうであった。小生の学生時代、三十年以上も前のことになるが、仙台に名物駅員がいた。マイクを持って「おちる(降りる)人がしんで(済んで)から乗って下さい」と言つてホームの人を笑わせていたが、あの当時は誰もがとにかく人より早く乗り込んで席に座ろうという気持ちが強かったと思う。あのころから比べれば、日本もかなり良くなったというべきであろうか。

さて、小生は韓国の前、イギリスに五年半ほど生活していた。ここでは確実に人が降り終わるのをじっと待つている。席に座るために駆け込むということもない。人と人同士で体が触れ合うことを嫌い、もしちょっとでも触れるとお互いに「ソリイ」と謝る。マナーが良いと言えば、圧倒的にマナーが良いが、韓国に比べるといかにものんびりしている。飛行機に乗り込む時も同じ。前の人の上の棚に荷物を上げていている間じっと待つているのはイギリス人である。韓国人はほとんどの人が上に荷物を上げている人におぶつかりあいながらも強引にすり抜けて前に進んで行く。もう飛行機に乗り込んでい

るのだから置いていかれることはないのに、とにかく自分の席に着かないと落ち着かないのか、人におぶつかりながらもどんだん先に進んで行く。この結果として、イギリスでは全員が飛行機に乗り込むのにすごい時間がかかるが、韓国ではあつという間に全員が乗り込んでしまう。

生活していく分には、マナーの良い方が気持ちが良い。しかしその結果として全体がスローモーションとなり、何をやるにも時間がかかる。これだけ国際競争が激しい中であつて、この生活態度がそのままビジネスに表れたら負けてしまうのかもしれない。

ロンドンの中心地ピカデリーサーカス。ここにはイギリスの企業というよりは世界を代表する企業のネオンが幾つもきらめき、日本の企業のものもある。数年前そこに韓国の会社のネオンが建ち、「韓国がイギリスにまで侵入した」と話題になった。

かつて七つの海を支配しながらも、病める老大国と言われるようになってから久しいイギリス、一方漢江の奇跡とまで言われて、先進国に追い

付け、追い越せと急成長してきた韓国(今一時的に頓挫しているが、この危機をいざれ乗り越えて、また成長を始めるであろう韓国)、この二つの異なった国で生活し、そして日本と比べてみたとき、マナーの良さと順とその国の持つバイタリティーの順が全く逆になっていることに気付く。マナーの方は多少目をつぶり、人におぶつかりあいながらも人を押しつけ、押しのけ一歩でも前に進んで行く。これが今の韓国を、そしてかつての日本の成長を支えてきた原動力なのだろうか。

マナーが良く、フェアであることが美しく、そうありたいと念じつつも、それだけでは厳しい国際競争に勝てないのではないかと思うと何かわびしい気持ちになってくる。この二つを両立させる道を探ることが必要であると思われ、また必ず両立させる道があるはずと確信している。

(おかむら・たかし)

(株)デジタルカー北陸 常務取締役

**人間の生き方が個性的だ**

—アメリカで感じたこと—

池田 勇人(精53)

九七年七月七日にデトロイトに赴

任しましたので、アメリカ生活はようやく十カ月になったところです。アメリカには何度か一〜二週間の出張で来たことはありましたが、実際に住んでアメリカ人と日常生活で接してみると、全く異なる面を痛感し

ています。今は少し慣れて来ましたが、最初の数カ月は身近に感じていたアメリカが、文化・価値観といった非常に基本的な面で大きく異なることが分かり、まさに江戸時代の人々が感じたと同じ「亜米利加」を自分が感じていたのではないかと思つたほどです。確かに車や電気製品・コンピュータなどの道具は何ら異和感はないのですが、それらを使つての「生き方」がまさに異なります。

百五十年前、日本に開国を迫ったペリーは、武士階級を「世界のどの地方においても、日本人のようにありのままの優雅さと威厳とをもつた国民に出会つたことがない」と評したといひます。しかし、アメリカ人が現在の日本人と同じことを感じるでしょうか？ 昔は使う道具は著しく異なつていても、「生き方」を主張できる民族であつたと思ひますが、現在は我々の生産した道具の優秀さは主張できますが、「生き方」といった面では新聞など見るまでもなく、世界一級とはいへません。日本文化という相変わらず江戸時代以前のもものを紹介し、今の日本文化紹介は耳にしません。

アメリカはとにかく「豊か」です。夏は朝六時から午後三時まで働き、その後十八ホールのゴルフに四十五〜五十ドルで行くことができます(夜九時まで明るいため)。土、日は湖の近くの別荘でポート。家は広い庭にプール付き。これが普通のサラ

リーマンで可能なのですから、確かに豊かです。これは国の豊かさだと思います。この広い国は自然が豊かで湖も土地も有り余るほどあります。オフィスでも私の家の周りにも、野生のリスだのうさぎだのが頻りに顔を出します。そして、二億人の消費者は大変「ケチ」ですので、高い物は買いません。しかし色々な遊びを好んでやるため、レジャー用品を含めて、物価は非常に安く安定しています。また、日本人は貯蓄するしか著財法がないため、せつせと金をためます。アメリカは大物リサイクルが進んでおり、家とか車を含めた中古が高く売れます。家は投資すると(エアコンを付けるとか…)財産価値が上がり、売る時その分高く売れます。車も五年落ちですと、日本ではただ同然、廃車料金を取られる位ですが、アメリカでは購入時の半値位で売れます。つまり、大物を買入れしても十分財産として通用するわけです。外の電気製品なども同じです。ガレージセールといって、この手のリサイクルは発達しています。生活で使うものは、ある意味で財産となり、貯蓄と同じような意味があります。裏紙とか使い古しの封筒などケチケチ使う日本人が、実は家とか車とか電気製品の大量浪費民族だと思えます。それは、新品への異常な執着心と他人との競争・比較で購入する相対的価値観に原因があるように思えます。ものの価値そのもの

を判断して生きていないからです。

考えてみると、日本人もドイツ人も敗戦から立ち上がって来たのですから、「豊かさ」はまず物質的なものに向かい、周りの人より豊かになりたい、今より豊かになりたいという相対的な価値観で進んで来たのだと思います。ちなみに日本の教育評価・仕事のやり方・法律など、すべて相対的価値観中心です。しかし、アメリカはこれらのものも、絶対的価値観が中心であり、基本的に異なります。アメリカ人は世界の中心は自分達だと信じています。私は日本が「豊かさ」を失った真因は、これではないかと思っている次第です。

残念ながら、日本自動車は日本人がこぎ続けたいと維持できない構造です。しかし、次のこぎ手である子供達も日々新聞をにぎやかす状態です。ほんとうの豊かさを得ることができない仕事では、若い人にも魅力がなく、単なるつらいだけの労働に映るのではないのでしょうか？

最近同じ職場の毎日三時半に退社する米人がこう言いました。「俺が日本人だったら、子供は絶対エンジニアにはさせない。彼らの労働時間は「クレージーだ」工学部として、その後の職場。私は彼の言う言葉が素直に理解できるようにになりました。アメリカ生活ただ今十カ月です。

(いけだ・はるよ Toyoda Automotive Loom Works, L.T.D., Southfield Office, Office Manager)

## 英国の建物

— オックスフォードに留学して —  
佐々木 茂 (機HII)

現在機会を得てオックスフォード大学へ留学させていただいております。こちらに来て初めに圧倒されたのが古びた煉瓦造りの家並みでした。それまで海外旅行すらしたこともなくいきなりの留学でしたので、その不安とも相まって思いのほか気圧されたのを覚えています。

オックスフォード大学というのが、古くは独立したカレッジの集まり(現在も経営は個々に独立)であり、現在の中心的なカレッジが出来上がったのが十六世紀ころだそうです。それらのカレッジや、そのころからある古い建物は内、外の修繕を繰り返しながらも、昔の姿をほぼそのままの形で残しています。もちろんこれらの建築物はこの国の大きな財産であり、観光資源でもあります。歴史的な建物はもとより、古くからあるタウンハウス(通りに沿って連なった連棟式住居)も、その外観を変えてはいけないところ (conserved) も少なくありません。

現在、街の中心で新築のデパートの工事が行われていますが、通りに面した部分に関しては元の建物の外壁を残しています。道路側に大きなコンクリートの塊を置いて、そこから鉄骨を組み壁を支えながら工事をしています。私が現在住んでいるタ

ウンハウスも、窓などの外装はいじってはいけないことになっているそうです。今住んでいる下宿の大家さんは自営の建築家なのですが、新築の家を建てることは極めてまれで、ほとんどの仕事の内、外装の改装工事だということです。一昨年、何年かぶりの新築の仕事が入ったとても喜んで話していました。もともとこれは市街地のかなりの部分が保存指定を受けているというこの街の特殊な事情もあるようです。そのためか家賃も他の同規模の都市と比べると結構高めで、ロンドン並みとも言われています。平均的な学生で月約二百数十ポンド(約五万円)、単身の日本人研究者、学生などが住んでいる二部屋、専用のバストイレの付いたフラットだと月五百ポンドくらいです。

この大家さんにこの家のことについて少し聞いてみました。この家はクイーンビクトリア時代の一八四五年に建てられたものだそうです。確かにそこそこ古いもので、私の部屋の床も少し家の後ろの方に向かって傾いています。家の裏側は小さな庭になっており、その端は裏の通りに面したガレージになっているのですが、昔はそこはコーチハウス(馬車置場)で、その上にはコーチマン(御者)の住んでいた部屋があったらしいとのこと、実際に同じ並びの家の中には、このコーチハウスが残っているところがあるのだそうです。

また、裏の通りの端の方には厩舎があり、近所の馬がまとめて入れられていたようです。そういうところからすると、この辺りには商人達が住んでいたのではないかとということになります。

また、裏の通りの端の方には厩舎があり、近所の馬がまとめて入れられていたようです。そういうところからすると、この辺りには商人達が住んでいたのではないかとということになります。

またベースメント(地下室)は、以前は通りに面した側が石炭庫、庭に面した側が食料庫として使われていたのだとか。今はそれぞれキッチンとダイニングルームになっています。この地下室には外から直接出入りできるようになっていて、以前はそこから暖炉に使う石炭を投げ入れるように入れていたということです。暖炉は全部の部屋にあったようで、私の部屋も机の置いてある場所が以前は暖炉だった場所だそうです。

この家の基礎は家よりもずっと古い石製のもので、シテューウォールに使われている十二、三世紀のものと同じ物らしいとのこと、今の家が建つ前にも、別の大きな建築物があったのではないかと、大家さんは言っています。

ある日、大学の研究者らしい人が訪ねてきて言うことには、ここにオックスフォードで最初のスペイン人の教授が住んでいたらしいとのこと。まあ、だからどうしたというわけでもないですし、どこまで本当なのかも分かりませんが、少し聞いただけでこれだけの話が出てきます。

(やぶき・しげる 帝京大学)

理工学部情報科学科助手

## チェンマイに暮らして

— 私のタイ覚書 —

木下 健史(精H1)

## 一、初めに

バンコクから飛行機で北へ一時間、北方のバラと呼ばれ、美人の産地としてタイ国内で知られている「チェンマイ」で、私は四年四月(一九九二年六月から一九九六年十月)の海外赴任生活を家族とともに過ごしました。当時のチェンマイは、大型スーパーマーケットがやっと一店できたばかりで、在留日本人も二百人程度しかおらず、一度も海外旅行をしたことがなかった私たち夫婦にとっては、かなり厳しい生活条件でした。私は、当時、ガラス電子部品の製造に従事しており、大手電気メーカーの東南アジア進出に伴い、チェンマイから南へ三十キロ程に位置するランブーン工業地帯に新工場を立ち上げるべく、タイランドに渡りました。この四年間で様々なことを体験しましたが、これからタイランドに行かれる方、タイの人たちと仕事をされる方の参考になればと思い、ペンを取りました。

## 二、チェンマイ紹介

タイランドといえば、高温多湿で、なまぬるい風が体からみついてくる感じがありますが(確かにバンコクは、そうです)、チェンマイは海拔三百メートルの高原地帯に位置するため、高温ですが湿度が低く、からっ

とした気候で住みやすい都市です。また、交通渋滞もほとんどなく(メータータクシーがない)、時間がゆっくり流れているような印象です。旧跡も多く、日本の京都によくたとえられます。季節は、雨期(五〜十月)と乾期(十一〜五月)があり、乾期の十二月から二月は、花が咲き乱れて涼しく、最も過ごしやすい良い季節です。同じ乾期でも四月は、気温四十度を超える猛暑になります。雨期は、前が見えない程のスコールや、眠れない程の激しい雷が鳴ることもあります。タイランドといえば洪水が有名で、私も何度か避難したことがあります。

## 三、タイ人

仕事や交友を通じて、タイ人について特に感じたことは、以下の五点です。

## ①陽気でフレンドリー

大変友好的です。ゴルフ場では、特に国民性が現れていたような気がしました。タイ人のゴルフの楽しみ方は、愉快に笑いながらラウンドしています。また、一人や二人でラウンドしている人がいれば、必ず一緒にラウンドしよう”と声をかけてきます。おもしろいエピソードがありました。一人の日本人がゴルフにやってくる、三人組の日本人のグループと一緒に回らせてほしいと頼んだところ断られ、次の四人組のタイ人のグループがこの日本人を誘って五人でラウンドしました。横で見て

いたアメリカ人が、日本人は、かわった民族だ”と言っていました。

## ②礼儀正しい

幼稚園の子どもでも、きちんとあいさつできるように教育され、目上の方への礼儀も行き届いており、非常に気持ちが良いです。

## ③子ども好き

東南アジア各国そうなのですが、子どものことを大変かわいがります。レストランなどでは、店員が集まってきたて、子どもをあやしてくれます。

## ④プライドが高い

特に大学を卒業されている方のプライドは、非常に高く、日本流に人前で説教でもしようものなら、逆に怒りだすこともあります。

## ⑤女性の活躍

日本よりも女性の会社での活躍が目立ちます。結婚、出産後も職場に復帰するケースが多く、子育ては、おじいさん、おばあさんに任せられることが多いようです。

## 四、日本に期待されていること

私たち日系企業が、現地で期待されていることは、雇用はもちろんですが、若い技術者の育成だと思えます。タイランドでは大学への進学率もまだ低いため、技術者が不足しており、その結果、人材の引き抜きが行われ、賃金の上昇という悪循環に陥っています。従って、高卒の技術者を育てていく必要があります。そのためには、現地でタイ語やタイランドの文化について学ぶのがよいと

思います(タイ語はかなり安く学べます)。また、タイ語を習得することにより、日常生活も楽しいものになります。

最後に、最近日本人の海外旅行者が増え、それに比例し、海外での日本人の起こすトラブルが増えています。そのトラブルについては、現地に住んでいる日本人についても、同じような目で見られるため、日常生活にも支障をきたすことがあります。海外旅行の際には、日本人として節度をもった行動を望みたいものです。(きのした・けんじ)

旭硝子(株)電子事業本部(旭硝子 郡山電材(株)に休職派遣中)

同期会ニュース  
はつくり会便り

(機械系同窓会)

はつくり会は昭和十四年四月に東北帝国大学工学部機械工学科に入学して、昭和十六年十二月に卒業(内二名は病気で翌年卒業)したクラスの会である。

大東亜戦争がその年の十二月八日に勃発したので、学徒を動員するために翌年の三月を待たずして、繰り上げ卒業となった第一号であるので、昭和四十三年に開催された第一回クラス会の席上で「はつくり会」と命名された。

機械系同窓会前会長の玉手統君は本会会員の最年少逸材である。その他昭和五十五年まで一般工芸教室

の教授を勤めた鈴木正彦君や、少し年長ではあるが中華人民共和国からの留学生関純志さんが居る。

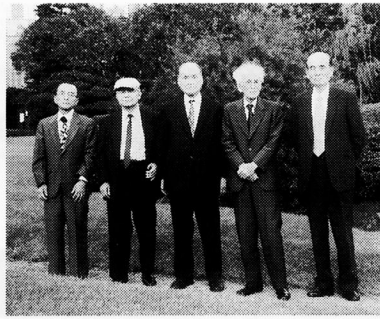
変わり種としては、かの宰相吉田茂の末っ子の吉田正男君が居る。彼は英語で外人と喧嘩ができる程達者な語学力を生かして、今も学術論文や会社依頼の文書の英訳を仕事として忙しがっている。

昭和十三年までは、機械工学科の定員は二十名であったが、十四年から定員を三十名に増やし、更に成瀬教授が製図室に机を最大限並べさせてご覧になり、ぎりぎり三十二名入学させることになったと聞いている。従って会員は三十二名であったが、残念ながら在学中に二名、卒業後に十四名物故して、現在は十六名である。

クラス会は昭和四十三年以降十一回開催されているが、平成六年に仙台の秋保温泉で開催した以外は、東京近郊で行っている。平成三年以降は毎年開催しているが、出席者は五〜八名と少なく、顔ぶれは大体決まってしまう感がある。これはもう傘寿を迎える年齢となり、半数位がどこか身体の不調を訴えている状況から、やむを得ないことだろう。しかし毎回高知から出席してくれる岸本博君や、京都からの平間仁君のような元氣者も居る。

会合に出席できない会員とのコミュニケーションを計るためにお互いの近況を報告しあい、名簿の更新

を兼ねた十〜二十ページの会誌「はつくり」を不定期に刊行していて、現在第九号まで出ている。  
 では最近の平成九年十月十日、早稲田のリーガロイヤルホテルでの第十一回クラス会の写真をご披露しよう（向かって右から岸本、鈴木、平間、鹿野、矢吹）。



はつくり会（早稲田にて）

ここには元気な姿で写っている鹿野忠郎君は十二月十日、心筋梗塞で他界してしまった。淋しい限りである。

（はつくり会幹事

矢吹 禎男（機16・12）

**機新会 便り**

（機械二十八年新制卒同期会）

これまでも青葉工業会雑誌などでご紹介したことがあるが、昭和二十八年に新制大学の機械工学科第一回として卒業した我々は、将来とも皆で親しく付き合っ行ってこうという趣旨で、会の名前を新制機械工学科からとって「機新会」と名付けた。

また会員の寄稿による雑誌を二、三年に一度発行しようということになり、その誌名を決める際に色々な案が出されて甲論乙駁、その場の雰囲気（ぎやうめき）がやがやしていたので、「ざわめき」と名付け、約五十年の歳月を経て今に至っている。

これまで、全国に散らばる会員が一堂に会する総会・懇親会や、東京仙台など比較的会員の多く集まっている地区では、新春午餐会や、ゴルフ、囲碁などの同好会を催してきている。また、雑誌「ざわめき」もこの五月に十七号を発刊したところである。

会員の多くはそろそろ現役や予備役から引退する年齢になり、時間も出来るようになったので、年に一度の総会・懇親会の出席者も次第に増えるようになり、平成八年は十月二十、二十一日に鎌倉で三十一名の出席、昨九年は福島県岳温泉で、十月十八、十九日の両日にわたって開催し、三十二名が出席した。

岳温泉での総会・懇親会はいつものように和やかな雰囲気の下に開かれたが、懇親会の宴会では時間がたつにつれて次第に自分の席を離れ、思い思いに集まって現在の暮らしを話し合う人、先生方など思い出しながら懐旧話に花を咲かせるグループなどが出来た。宴会が終わっても話が尽きず、ほとんどの会員が一部屋に集まって続きの話に夢中の有様で、その間に飲み干したアルコール類も、

そろそろ老境に入ろうかという人達が片付けて良いのだろうか、幹事をはらはらさせるほどの空びんが出た。  
 翌日は午前八時半宿舎を出発し、現地近くの日大郡山に勤務している長尾、斎藤両君の案内で、土湯峠、浄土平、福島県立美術館などを訪ねた。



機新会、平成9年10月18~19日、岳温泉にて

後列左から 塩本、宮崎、菊田、長尾、阿部、野田、長倉、大野、鈴木、星沢、石村  
 中列左から 中村、千葉、山部、小岩、川口、吉田、榎本、細井、村上  
 前列左から 森谷、平山、斎藤、後、板橋、北、岩田、佐藤、金生、松下、石山、斎藤（篤）

この日は朝方少し寒かったが絶好の秋晴れに恵まれ、しかも数日前の気候が例年に無く寒かったために、

周辺の山々はまさに赤、青、黄をこき混ぜた綿繻綾成す素晴らしい紅葉で、その美しさに皆圧倒されつばなしの嘆声（なげなげ）が尽きなかった。土湯峠からはるかに望む猪苗代湖なども、会員の日ごろの行いの良さを証明してくれたものと喜んだりもした。昼食の後県立福島美術館を訪ね、午前の自然の美に次いで、ここでは人工の美を楽しみ、午後四時前に福島駅前解散したが、本日に素晴らしい一日であった。

今年水戸近辺在住の会員の肝いりでひたちなかで総会・懇親会を開催し、その後東海村の日本原子力研究所見学、NHKの大河ドラマにちなんで水戸の徳川慶喜ゆかりの場所を見物する予定で居る。

（千葉 孝男（機28新）

**精密三十七年卒同期会**

皆さん。井上ひさし氏の「青葉繁れる」という小説をご存じですか。だいぶ前に読んだもので、ストーリーは忘れてしまいました。多分、昭和二十年代後半から昭和三十年代前半にかけての仙台を舞台とした高校生（もちろん新制）の青春物語ではなかったかと思えます。

さて、このようなことを申し上げますのも、この度、大池編集幹事より、同窓会ニュースに「昭和三十七年精密卒のクラス会」のことを載せるので、原稿を書くようにとのご指名を受けてしまいました。

そこで慌てて、周りの者に聞いて回ったりしたのですが、結局のところ、今を去ること四年前の平成六年十一月に仙台で行われた「航空工方精密同窓会総会」（このときには川本信彦先輩（精36）の特別講演があった）に続いて行われた「国分町」での卒業三十年同級会以来、特に何も行ってはいないらしいということになりました。

そこで、甚だ恐縮ではありますが、私の住んでいます名古屋地区（東海地区）における非常にローカルなクラス会についての近況をご報告することと致したいと思えます。

この名古屋地区には「青葉工業会」関係の同窓生が結構いらつしています。我が昭37精密卒も、岩佐、小出、高瀬、山田、小川と六名程おり、四、五年程前から、年に一、二度の「飲み会」を行つています。そしてこの飲み会の名前が、冒頭の小説の題名を頂いた「青葉繁れるの会」となっている次第です。

と申しますのも、上記同級生（同期生）の中には、多くの仙台の高校出身者がいるからです。このような格調高い名前を頂いて、この外に神戸在住の荻田、伊藤（征）、唐津、果ては長野県戸倉町在住の千木良にまで声を掛けては、名古屋駅周辺にて盛大に行つています。このような次第ですので、皆さんも名古屋の方にいらつしやうなときには、是非お声をお掛け下さい。

自由業の小川（岡崎市在住）か、まだ当分は現役をやる予定の高瀬（勤務地が名古屋駅に比較的近い長久手町）がお相手をつかまっています。

ところで、話は変わりますが、去る五月二十三日の機械系同窓会総会には、精密37卒からは、山田、永久保、千木良、松見、人見、小川（写真、左からの順）の六名の者が参加し、その懇親会では、あの東京大飯店8Fの舞台の上で、『還暦祝い』兼『冥土の土産』に、『青葉萌ゆるこの陸奥』を合唱してしまいました。



精密37卒六人衆、大いに歌う

このようなチャンスは滅多に無いことですので、まだ還暦祝いを済まされていない方は、来年是非ご参加下さい。  
てな訳で、我々の『青葉繁れるの会』も『青葉萌ゆるを歌おう会』に変えようかと思っています。  
なお、来年の機械系同窓会通常総

会は、仙台で行われる予定ですので、我が精密37卒同級会も、来年は仙台で行うようにしてはいかががでしょうか。仙台の方にいらつしやる方、よろしくお願い致します。

（小川 寛（精37））

### ミツパチ会便り （精密三十八年卒同期会）

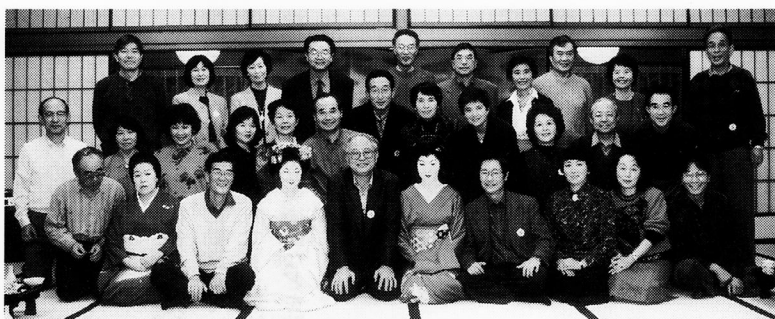
昨年京都で開いた同窓会のアルバムが手元にあります。奥様同伴が十四組、単身参加が三名、どの写真もまるで浮き世を離れたかのような屈託のない笑顔が満ちあふれています。大学を卒業してから今年で三十五年、研究室ごとの同窓会はここで行われていましたが、本格的に全員に呼びかけた同期会がこれが初めてでした。

事の起こりは平成七年十一月、航空工力精密同窓会総会（東京）に三十八年卒が六名集まりました。その中に秋田の小京都と呼ばれる角館で助役をしているI君がはるばる出席され、W君の首頭取りでたちまち翌春のお花見会の話がまとまったのでした。

平成八年四月二十八日、まだ少し肌寒さが残る角館に、夫婦同伴を含めた二十数名が集合し、楽しくもにぎやかなひとときを過ごしました。これに味を占めた一同は、今度は全員に呼びかけて開こうということになり、京都に単身赴任することになったW君にまた現地幹事を引き受

けて頂き、次回を秋の京都に名利と紅葉を訪ねてという設定をしました。会の名前も決めました。三十八年精密卒からミツパチ会。これには我ながら良く働いてきたという感慨も少しは入っているのかもしれない。

そして一年半後の平成九年十一月二十二日、新装なった京都駅に十七人の同期生とその奥様、総勢三十一人が集合し、バスで南禅寺、永観堂を巡って、夕映えの八坂の塔を見て、料亭「高台寺大和」で宴会を持ちました。その時の写真を次にご披露いたします。舞妓さんを呼ぼうかどうか、事前のアンケートでは賛



精密38年卒同期会、平成9年11月22日、京都にて

否が相伯仲していましたが、その結果は写真の通り。全員が「賛成しなかったのはいったい誰だ」とばかりのにぎわいでありました。

翌日は二尊院、常寂光寺、天竜寺、広隆寺を巡り、嵯峨野で食事をして十六時半、京都駅で解散しました。昨年はエルニーニョのせいで紅葉が例年になく不作であったとのことでしたが、それでも時折降る小雨にしっかりとぬれた紅葉の風情に心が洗われるようでした。

三十年ぶりに会う顔もありました。しかしこの人誰だったかなと戸惑うのはほんの一瞬、長い時を飛び越えて学生時代の気分がよみがえってきます。そして今回は今年の十一月に卒業三十五周年として、仙台での開催が予定されています。今回参加出来なかった方々も是非ご参加下さい。京都巡りのバスの中で、出席者の一人I君が二十句以上の俳句を披露しました。その内の一句をご紹介します。一歳も 待ち侘ぶ都 時雨けり

（井上 達也（精38））

### 精密四十一年卒同期会

五回目の同級会が一九九七年十一月八日、九日の土、日にかけて、初めて仙台で行われた。これまで四回の同級会はすべて東京地方であったが、卒業後三十年以上の月日がたち、青春の思い出の街を一度訪ねたいとの声を受け、仙台開催となった。在仙

幹事五名（伊澤、伊藤、佐藤、高津、引地の諸君）が頭をひねり、これまでのただ集まって飲んで話をする、のと違った企画を考えてくれたこともあり、参加者も二十二名を数えた。



精密41年卒同期会、1997年11月8~9日、仙台にて

両日とも好天に恵まれた。まず八日の午後、青葉山キャンパスにある青葉記念会館に集まり、機械系三学科の変遷について伊藤一君（情報科学教授）からの説明を聞いた。大学の組織がどんどん変わり、多くの卒業生が自分の卒業した学科がなくなり寂しい、新しい名前からは全く中味が見えてこないと感じていることを受けての企画であったが、仲間顔付きからすると、説明を聞いた

後でもしっくりしていないようであった。続いて畑中徹君(本田技研)の「車環境にかかわる知能化技術の展望」についての講演があった。現在のカーナビは一方向通信であるが、今後交通システムは相方向通信に発展し、情報をやり取りして安全運行、事故防止、自動運行などが実現されるであろうとの話に、質問、討議が活発になされ、楽しい講演となった。

この後精密工学科の建物を見学し、昔の研究室で学生時代を思い出したり、世代の交代を改めて感じたり、時間を過ごした。

懇親会は仙台市の勤労者保養所「茂庭荘」で行われた。おいしい食事とお酒を楽しみながらいろいろの話題に花が咲いた。話は尽きず宴会後も部屋で、学生時代のように二時、三時まで語り続けた。盛り上がった話の行きがかりで、次回同級会は名古屋地区で開催することになった。翌日は、幹事が用意してくれた車で「仙台懐かしツアー」。青葉城址、青葉山、川内、片平キャンパスを訪ねた。我々の世代は川内で一、二年片平で三年、青葉山で四年を過ごしたので、それぞれの場所に思い出があつたはずであるが、三十年の月日とそれぞれの場所の変化は、懐かしさを感じさせてくれなかつた。お昼前に片平で別れてそれぞれ家路についた。

(清水 優史(精41))

### 機械四十七年卒同期会

実施日時 一九九七年八月二十三日(土) 十八時〜二十一時

開催場所 横浜ランドインターコンチネンタルホテル「カリブ」

参加人数 卒業生二十一名 飯塚、岩淵、久保、栗原、斉藤、鈴木、高野、竹内、橘、丹野、富塚、中山、長沢、長谷川、浜津、福原、森下、吉田、和田、渡井、渡辺(敬称略)

【概要】 前回(一九九二年・仙台)の卒業二十周年に引き続き、卒業二十五周年の区切りとして開催。

開催地が横浜ということもあり恩師の出席は得られなかつたが、遠く延岡から渡井君が、盛岡から岩淵君が、明石から竹内君が、仙台からは丹野君、橘君が遠路はるばる参加し、総勢二十一名(全五十四名)が会し、近況報告や昔話で楽しい時を過ごした。

和田幹事より、最近の大学改変の詳細や恩師近況と共に、伊達君逝去に付いても報告があつた。

参加者全員が大学教授、企業中核あるいは家業の長として活躍中であり、いかにも東北大学卒業生として各方面で活躍していることが個性豊かに報告された。

会場からは横浜港やベイブリッジが一望でき、ホテル側より飲み物無制限のサービスなどもあつたが、やはり話が中心で予定時間は瞬く間に過ぎ、料理の大半を残したまま次回



機械47年卒同期会(横浜にて)

名であった。

【第一部 総会の行事(14時30分〜15時40分)】 総合同会の村田稔(精46)が開会を宣言して、最初に玉手統(機17)が会長挨拶を行い、次のように述べた。

「我が同窓会は、平成七年十一月十一日に設立され、関係各位の絶大な熱意によって、ようやく活動が軌道に乗ってきたことを大変喜んで、続いて玉手会長が議長席について議事に入った。

#### 第一号議案

「平成九年度事業報告」

「同 右 出版事業報告」

#### 第二号議案

「同 右 決算報告」

「同 右 監査結果報告」

を各担当役員がそれぞれ報告を行い承認された。

#### 第三号議案 「役員改選」

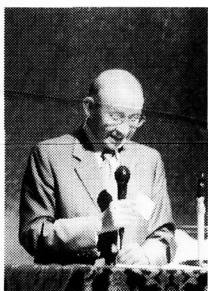
会則により、全役員は平成十年三月三十一日をもって任期満了となつたので、改選を行つた。その結果は次の通りである。

#### (新任)

玉手統名誉会長、酒井高男会長、

武山斌郎副会長(機21)、箱守京次郎

監事(精30)及び矢能彰理事(精31)



挨拶中の玉手会長



酒井新会長の就任挨拶

(再任) 死去した手島恒男監事(機27)と細野晃理事(精31)を除いて、その他の役員全員。

#### 第四号議案

「平成十年度事業計画案提示」

「同 右 予算案提示」

を各担当役員が行い、それぞれ承認された。当初予定されたものの外には議題は無く、新旧会長の挨拶をもって議事を終了した。

### 平成九年度通常総会報告

酒井高男副会長(航19)

会長に選出される

(敬称略)

平成九年度通常総会は、平成十年五月二十三日(土)、東京大飯店にて開催された。

出席者は、機械四十九名、機械II七名、精密系六十七名の計百二十三



酒井新会長の就任挨拶を聴く出席者

会員の訃報 (敬称略)

ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

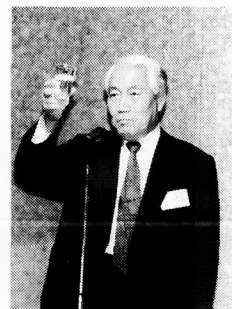
(平成九年九月、同窓会ニュース第三号 発送後事務局で入手したものを掲載しました。)

西村 節朗 (機7)	9・8・23
曾山 信章 (機9)	8・11・11
鈴木 春男 (機12)	8・5・6
鹿野 忠郎 (機16・12)	9・12・10
黒部 利貞 (機18)	8・10・7
大野 俊一 (機20)	9・7・17
川島 俊夫 (機20)	9・8・22
久喜 勝郎 (機21)	9・6・1
小川 宏 (機23)	9・10
小泉富士雄 (機24)	9・5・15
手島 恒男 (機27)	9・11・1
吉田 達朗 (機27)	9・6・25
渡辺 英一 (機37)	10・1・18
稲吉 勝 (機41)	9・6・19
近藤 幹 (航16・12)	9・10・3
石谷順二郎 (航17)	10・3・2
萱場 保次 (航19)	10・4・28
下村 力 (工力21)	8・7・20
武 庸雄 (精31)	10・4・26
嵐 治夫 (教官)	9・10・27

お願い 会員死亡の時、氏名・学科名・年次・死亡日・住所を左記へご連絡下さい。会長名の弔電を差上げます。

(連絡先)

東北大学機械系同窓会 洞口明子  
電話 ○二二二二六〇八二六  
FAX ○二二二二六〇八一八〇



乾杯の音頭は小林清志氏

第II部 特別講演 (15時40分-16時50分)

斎藤馨 (精28) の講演者紹介の後、セイコーインスツルメンツ (株) 社長伊藤潔 (精34) が、「生産技術の追求と経営——ウオッチ製造の自動化で得られたもの——」と題して、特別講演を行った。セイコーグループの紹介を冒頭に行い、生産技術の解説、自動化システム、日本の製造業の課題などについて、OHPによ



懇親会風景。左端は玉手名誉会長、お話し相手は矢吹禎男氏 (機16・12)

る分かりやすい講演を行い、出席者に感銘を与えた。終了後、質疑応答が行われた。

第III部 懇親会 (17時-19時)

は、司会進行を渡辺裕 (機47) が担当して、開会の挨拶ならびに乾杯の音頭を小林清志 (航19) が行い、開宴した。

テーブルスピーチのトップバッターとして、この懇親会参加の最年長者 飯野優 (機11) が指名され、中島飛行機勤務時代の思い出を語った。若い会員からこの大先輩に対し次回も是非参加して下さいとの声がか

つた。次に参加者最年少の宮崎真司 (精H5) がスピーチに立ち「先輩方の話を聞きたくて参加した」と述べた。

次に大好直 (機H43) が機械IIを代表して挨拶した。続いて中堅会員を代表して平間英生 (精46) の挨拶があった。その後、宮坂名誉会長夫人を除いて紅一点の出席となった野間千賀子 (機H3) から、女性会員が徐々に増加していることや最近の大学の様子について紹介があった。

宴もたけなわとなり、歌なくしては同窓会にあらざるの意見が強く出されたの

平成9年度収支決算

自 平成9年4月 1日  
至 平成10年3月31日

収入の部

費目	予算額	収入
会費	¥6,000,000	¥7,011,770
東北大学航空工力同窓会より寄附	—	¥400,780
総会開催費	—	¥830,000
前年度繰越金	¥7,840,675	¥7,840,675
広告収入	¥800,000	¥340,000
銀行預金等利息	¥1,000	¥7,040
合計	¥14,641,675	¥16,430,265

支出の部

費目	予算額	支出
事務経費	¥800,000	¥86,988
会誌発行費	¥2,100,000	¥940,800
ニュース発行費	¥1,400,000	¥391,200
封筒等印刷費	—	¥775,095
発送費	—	¥1,869,195
設立一時立替金の返済	¥1,500,000	¥1,500,000
総会開催費	¥2,000,000	¥501,732
記念品費	—	¥211,090
各種手数料	—	¥55,400
東京事務所活動支援金	¥300,000	¥300,000
人件費	¥800,000	¥78,000(※)
講演会開催費	¥100,000	¥0
予備費	¥1,350,000	¥0
次年度繰越金	¥4,291,675	¥9,720,765
合計	¥14,641,675	¥16,430,265

(※)平成9年度分としてさらに125万円が支出されていますが、会計上の理由で次年度の決算に含めて報告いたします。

事務局より

で、千木良賢作 (精37) ほか同期の精37グループの面々に歌唱指導を頼んで、(C)の一段目に写真を掲載) 東北大学・学生歌「青葉萌ゆるこのみちのく」を全員で唱和し、会場は大いに盛り上がった。

級友との昔話や最近の情報交換など和やかな雰囲気の内に行われた懇親会も中締め時刻となり、縮めの挨拶を大学職員を代表する形で、坂真澄 (機52) が行い、予定通りに終了した。

◎同級会 (同期会) の報告・記事を八百一千字位にまとめ、記念写真一葉を添え同窓会事務局・編集幹事あ

てに送って下さい。同窓会ニュース原稿と朱書のこと。受付随時。

◎同窓会誌にご投稿を。テーマ自由。約二千字。同窓会事務局・編集幹事あて。同窓会誌原稿と朱書のこと。十月十五日までに到着の分は三号掲載予定。編集都合上、次号まわりの場合はご了承下さい。

◎住所変更の場合、ご連絡下さい。同時に旧住所の最寄り郵便局で新住所あて回送手続きをとって下さい。

◎海外に駐在される方は、駐在先の住所をご連絡下さい。帰国後は直ちに現住所をお知らせ下さい。

◎同窓会についての建設的なご意見を同窓会事務局までお寄せ下さい。